

発達支援の5領域とレコルダCラボの支援プログラム

事業所における基本情報

- ①事業所名 レコルダCラボ
- ②作成年月日 令和6年4月1日
- ③法人(事業所)理念
主に学業支援を通して、
1. こどもたちが学びを続けられる資質や能力をささえること
 2. こどもたちが夢を見つけ、実現できるようにエンパワメントすること
- ④支援方針
・クレイス脳機能プログラム(※)と称する6種類の脳機能トレーニングと教科学習を組み合わせることで、学びを続けられる資質や能力の向上を支援する。
(※クレイス脳機能プログラム
=聞くスキル、読むスキル、見るスキル、考えるスキル、話すスキル、ソーシャルスキル)
・カリキュラム、課題の難易度、教え方と学び方、学習者の特性のそれぞれの観点から、最適な学習を支援する。
- ⑤営業時間 平日(月～金) 13:00～19:00
土曜日 9:00～17:45 (12時30分から13時15分までは休憩時間)
- ⑥送迎実施の有無 無

支援内容

- ⑦本人支援の内容と5領域の関連性 別紙参照
- ⑧家族支援(きょうだいへの支援も含む)の内容 別紙参照
- ⑨移行支援の内容
学校での様子や教育の指導内容、方法について以下の方法で共有を図ります。
- ・お渡しする情報共有シートなどを用い、療育の様子を学校等に共有していただく。
 - ・情報共有、学校連携についてご同意いただいた場合、支援計画作成時に、学校と会議をして、内容を吟味、精査する。また、学校の様子をお聞きしたり、療育の様子をお伝えしたりしながら、共通の課題について設定環境を合わせたり、進捗状況を確認したり、意見交換をする。
- ⑩地域支援・地域連携の内容
相談支援事業所、もしくはご利用中の他の放課後等デイサービスから得られた情報を活用し、主に以下の方法で連携した支援になるように努めます。
- ・相談支援事業所のサービス等利用計画書を共有させてもらい、相談支援専門員の考える弊所の役割と支援内容について検討する。
 - ・セルフプランの場合、弊所が中核となる事業所として、会議を開催する等によりご利用中の他の事業所間と、個別支援計画や評価の共有をしたり、日々の支援の様子を共有したりするなどして、連携を行う。また、家族への助言援助や自治体との情報連携等を行う。
- ⑪職員の質の向上に資する取組
- ・ご利用者様のニーズに応じた良質なサービスを提供するために、技術、コミュニケーション能力、協調性、問題解決能力、マネジメント能力等の向上に努める。
 - ・直接支援、保護者支援に係わる社内研修の機会を設け、教材や手法など幅広い知識が得られるように支援する。
 - ・外部研修や資格取得のための社内研修・シフト調整を行う。
- ⑫主な行事等
- ・季節の行事(七夕、クリスマス、節分、ひな祭りなど)に合わせた絵本の読み聞かせや、工作などの活動。

発達支援の5領域とイーホCラボ/レコルダCラボの支援プログラム（別紙）

発達支援

障害のある子どもが、将来、日常生活や社会生活を円滑に営めるようにする為、子どもの発達に関わる次の5つの領域すべてを含む総合的な支援を行います。

健康・生活	ねらい	a 健康状態の維持・改善 b 生活のリズムや生活習慣の形成 c 基本的な生活スキルの獲得
	プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団生活スキル（学校生活に必要な指示やルールを理解、学校生活の流れに慣れる等） ・ 危険予知トレーニング・2 択展開カード『このあとどうなる？』（日常にある危険をあらかじめ学び、事前に予測して防止できるよう訓練する） ・ お箸で豆つかみ、蝶々結び等、基本的な生活スキル ・ 「今日のタスクシート」やイラストによる「スケジュール」等、時間の構造化を用いた支援 ・ ストレス軽減、ストレス耐性、コーピングスキル、アンガーマネジメントの取り組み ・ 対人関係において、摩擦なく、スムーズな生活を送るための支援 ・ 自己肯定感など、心の健康を保つための支援 ・ スケジュール表の使用等で時間感覚を育み、規則正しい生活を送る習慣づけのための支援 ・ 自身の健康状態の気づきの支援
運動・感覚	ねらい	a 姿勢と運動・動作の向上 b 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 c 保有する感覚の総合的な活用
	プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ コイン入れ、ペグさしなど手指の巧緻性運動 ・ 工作 ・ かるた、狩る歌等カードゲーム、あわせてことば等視覚・聴覚・触覚を活用したゲーム ・ ビジョントレーニング ・ 追従性眼球運動、跳躍性眼球運動、視覚探索等の眼球運動 ・ 視空間認識能力を高める遊び（図や表、漢字等を視覚で覚える力） ・ 言語的短期記憶を鍛える遊び（聞いた音や言葉を覚える力） ・ 視覚で捉えた単純な情報を素早く処理する力をつけるプリント課題 ・ 恐怖、不安、聴覚過敏などの感覚過敏に対する取り組み ・ 正しい姿勢を保ち、維持する取り組み ・ スケジュール表の使用等で時間感覚を育み、規則正しい生活を送る習慣づけのための支援 ・ 社会性を獲得するうえで障壁となっている、感覚面での躓き(声の大きさ・距離感等)を軽減させる支援 ・ 感覚の統合と感覚過敏症等への環境調整支援 ・ ボディイメージの形成支援
認知・行動	ねらい	a 認知の発達と行動の習得 b 空間・時間、数等の概念形成の習得 c 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得
	プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語性ワーキングメモリの向上を図る療育プログラム（聞いた情報を頭の中にとどめておいて、その情報を操作・加工する力） ・ 視空間性ワーキングメモリの向上を図る療育プログラム ・ 空間認知、平面認知のトレーニング（目で見えないところを推測する力や立体構成を操作・加工する力） ・ 規則性や因果関係の理解を深めるワークや遊び（原因と結果の因果関係や条件と結果の整合性を考える力）

<p>認知・行動(つづき)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音の選択的注意トレーニング（不要な周囲の音と必要な音とを区別する力） ・学校の学習内容の理解を深めるための、具体物や教具を使った学習 ・時計やお金の基本的知識を習得するための課題 ・空間認知・他者視点・試行錯誤・論理・数的処理を、網羅的に楽しみながら学べるタブレット学習 ・絵や図、グラフ等を観察する力、分析する力を育む課題（絵や図、グラフなど文字以外のものから情報を読み取る力） ・ひとつの事実を根拠として他の事象の真偽を考える思考法（演繹法）の体験的学習 ・「推論すること」への困難さに対応する支援プログラム ・「計算すること」への困難さに対応する支援プログラム ・「書くこと」への困難さに対応する支援プログラム ・「話すこと」への困難さに対応する支援プログラム ・「読むこと」への困難さに対応する支援プログラム ・メタ認知、自己モニタリング機能を向上させる取り組み
<p>言語・コミュニケーション</p>	<p>ねらい a 言語の形成と活用 b 言語の受容及び表出 c コミュニケーションの基礎的能力の向上 d コミュニケーション手段の選択と活用</p> <p><u>プログラム</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことばをまとめて読む力をつけ、読んだことばがイメージできるようになるための療育プログラム ・ひらがな、カタカナ、漢字の読み書き能力向上のための課題 ・意思や体験を表出したり、作文にしたりする力を伸ばす課題 ・文章を読んで、内容を理解したり、行間を読んだりする力をつけるためのプログラム ・話の内容や詳細、前後関係や要旨に着目する力をつける絵本をつかった読解プログラム ・語彙やカテゴリを増やす療育プログラム ・助詞や接続詞、相対表現などことばの理解を深める課題 ・ディベート等自身の意見を表出、表現する活動 ・表出の難しい児の場合、絵カードや筆談によるコミュニケーションの実施 ・会話や話ことばの理解力を育てる療育プログラム ・ことばや文章のイメージをふくらませ、文脈をつかんだり気持ちを読みとったりする力を育てる課題 ・お話の構成や展開を理解し、筋道を立てて説明をする力を育てる課題 ・音読活動（スラスラ読む力、文章の主語-述語関係を理解する力） ・お話の登場人物の感情や状況を言語化する取り組み ・読んだお話を頭の中でイメージする力を育てるプログラム ・相手に伝わる表現方法を身につけるための支援（客観的な視点による表現方法） ・主張に対する根拠や「理由づけ」の大切さに気付く活動 ・人前で話す抵抗感を減らし、話すことへの安心感を培うための支援 ・人前で「できた」という経験を積み、自信と自己肯定感を育てるための支援 ・語彙を増やして自分のことばで考えを表現する力を伸ばす取り組み ・ことばを通して伝え合う活動 ・他者とのコミュニケーション能力向上を目指した、総合的なリーディングスキル（読解力） ・「書くこと」への困難さに対応する支援プログラム ・「話すこと」への困難さに対応する支援プログラム ・「読むこと」への困難さに対応する支援プログラム

人間関係・社会性	ねらい	a 他者との関わり（人間関係）の形成 b 自己の理解と行動の調整 c 仲間づくりと集団への参加
	プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルスキルトレーニング ・ 自他の理解を深めるグループワーク ・ 自己理解と他者への配慮 ・ 他者視点獲得のためのトレーニング ・ 暗黙の了解、行間を読む、状況を読むワーク課題 ・ 会話の流れを知る課題 ・ 大人との信頼関係の構築、子ども同士の信頼関係の構築する力をつけるプログラム ・ 感情コントロールのスキルを身につけるためのプログラム ・ 他児との意見調整を目的としたペアワーク、グループワーク ・ 対人マナースキルを身につけるためのプログラム ・ 集団への参加（活動、遊び、ゲーム等） ・ あそびやゲームのルールを理解すること守ることをねらいとした活動 ・ 話を最後まで聞き続ける集中力や大切なところを聞き分ける注意力を育てる課題 ・ 相手の立場に立って、どう聞こえるのか（他者視点）を知り、自分も相手も大切にす表現を学ぶ（アサーション） ・ 抽象的表現を理解するためのトレーニング（類語や様々な言い回しなどにふれながら相手の言いたいことを推測する力） ・ 協力&協働するスキル ・ 人間関係の土台となる「(態度、姿勢を含めた)聞く力」の向上

家族支援

障害のある子どもを育てる家族に対して、障害の特性に配慮し、子どもの「育ち」や「暮らし」を安定させることを基本に、丁寧な「家族支援」を行うことが必要であるため、次の支援を行います。

家族支援	ねらい	ア 家族からの相談に対する適切な助言やアタッチメント形成 イ 家庭の子育て環境の整備 ウ 関係者・関係機関との連携による支援
	プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもに関する情報の提供（月一回、1カ月間の療育の様子を報告） ・ 療育の様子を観察してもらい、助言や療育内容について共有する（子育てサポート） ・ 相談支援専門員との個別支援計画の調整（個別支援計画の交付と意見聴取） ・ペアレントトレーニングや保護者交流会などを実施 ・ 事業所内で対面や居宅への訪問による相談援助支援

